

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年3月分）

【製造業】

○製造業は、1月の鉱工業生産指数は前月比▲0.3%と僅かに低下。ヒアリングでは、売上は100%に戻りつつあるとの声があった反面、トヨタの減産の影響が1、2ヶ月後に出るかもしれないとの声もあった。このほか、コロナ感染が続いており、海外工場の閉鎖を懸念する声も聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、1月の鉱工業生産指数は、家具及び食料品以外で増加した。ヒアリングでは、売上は前年同月比でプラスで推移し、コロナ感染症拡大前に戻っているとの声があった。一方で、コロナ感染症拡大の影響により、今後の見通しは不透明であるとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、2月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で31.6%増加した。ヒアリングでは、事業再構築補助金などの補助金を活用した設備投資を行っている動きが引き続きあった。一方で、金融機関からは、好調な企業はSDGsなどに関する設備投資を行っているところもあるが、全体的に設備投資が活発という状況ではない、との声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、2月の販売額は、スーパー及びコンビニで増加したものの、それ以外では減少し、全体でも僅かながら減少した。ヒアリングでは、まん延防止等重点措置の影響で客足が落ちてしまうとの声があった。また、原油・原材料高騰の影響により、価格上昇の原因になることは間違いないとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、2月の観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の令和元年同月比を大きく下回っている。宿泊施設からのヒアリングでは、週末でも満室になることはないとの声や、材料費や運送費の上昇により原価が上がっており、経営を非常に圧迫しているとの声が聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、2月の制度融資実績は、件数、金額ともに10ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、ゼロゼロ融資の返済が徐々に始まっていくため、今後、資金需要の高まりや条件変更等出てくると思うが、現状は目立った動きはないとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、2月の有効求人倍率は1.59倍と6ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、業績が好調で、設備管理技術者及び製造担当者を多数募集しているという声が聞かれた。一方で、大手企業に派遣社員が流れており、人員の確保が難しい状況となっているとの声や、コロナ感染症の影響を強く受けている飲食業をはじめとする業種においては、再開・回復時の人員確保が困難となることが予想され、業績回復の足かせになるものと考えられるとの声が聞かれた。

【景気動向】

1月の景気動向指数（一致指数）は前月比で1.3ポイント上昇し、2月の中小企業の景況感は同比で▲8ポイント低下した。